

当院の規定 精子凍結保存及び凍結保存継続に関する説明書

文総-46:精子凍結保存及び凍結保存継続に関する説明書(2版2016年2月)

以下は精子凍結に関する規定の説明書です。なお、説明書ならび同意書にて事実婚の場合も事実婚の男性側を夫、事実婚の女性側を妻と説明しています。また、化学療法や放射線治療に備えて診断書提出により精子凍結をされている独身男性と放射線関連施設などに勤務し、被爆の恐れのある独身男性の場合は、以下の文中の夫の部分と同様に読みかえて規定が適用されます。

1 精子凍結保存について

精子をマイナス196度で凍結し、保存することを精子凍結保存といいます。精子は処理後半永久的に凍結保存することが可能です。精子凍結の安全性は医学的に立証されています。当院にて精子凍結をすることが出来る方は次の通りです。

1-① (1) 入籍済みのご夫婦

(2) 住所が同一である事実婚カップル

初診時はお二人での来院が必要です。その際それぞれ戸籍謄本と住民票をご提出いただきます。

(3) 化学療法や放射線治療を予定し将来精子形成が困難になることが予想される独身男性病態と今後の治療計画が記載されている主治医作成の診断書をご提出いただきます。もし、化学療法や放射線治療予定日まで時間がなく診断書が間に合わない場合にはそれに代わる書類(病名や治療計画が明記された医療施設から患者様宛への書類など)を初診日にご提出いただき後日改めて診断書をご提出ください。お約束の期日までに診断書が提出されない場合には凍結精子の所有権を放棄したものとみなし、凍結精子の処分権

(4) 放射線関連施設に勤務し、被爆の恐れのある方

初診時に勤務先証明書の提出が必要です。

上記以外の方、化学療法や放射線治療を予定していない健康な独身男性は対象ではありません。また、現在GIDの方の精子凍結は受付しておりません。(すでに凍結している精子は更新が可能ですですが新たに凍結することは出来ません)

1-② 精子凍結保存の前までに、当院にて精子検査の実施が必須

当院で精子凍結保存をされる場合には、事前に当院にて精子検査を済ませていることが条件となります。万が一、精子検査をされる前に精子凍結のご予約をされ、精子のご提出があった場合には、ご提出精子は凍結ではなく検査用の検体として使用し、先に頂戴している精子凍結の費用(「2精子凍結保存期間と費用」参照)と精子検査の費用8,400円(税別)の差額は次の診療時に請求させていただきます。(精子検査の実施有無の確認は検体提出後に精子調整室にて行います。この時点で既に患者様はご帰宅されているため当院の判断にて精子凍結ではなく精子検査用として使用致します)ただし、化学療法や放射線治療を控えている方で将来精子形成が困難になることが予想され、主治医作成の診断書提出により精子凍結を希望される場合には医学的事情を考慮致します。

1-③ 精子提出時の注意点

(1) 精子凍結は事前に予約が必要です

院内採取にて凍結される場合は「院内採取精子凍結(産み分けなし)」という項目名でWEBからご予約下さい。ご自宅から持参される精子を凍結する場合は「持参精子凍結(産み分けなし)」という項目名でWEBからご予約下さい。XY精子選別法の患者様はそれぞれ「(産み分けあり)」を選択してください。凍結方法が院内採取から持参に変更されたい場合やその逆の場合も予約変更が必要になります。キャンセル・変更は予約日の前日分まではWEBにてお願い致します。当日の変更・キャンセルに関しましてはWEBでは行えませのでお電話にてご連絡下さい。

(2) 院内採取にて精子凍結をされる場合

- 採精室の利用は20分間を目安として頂きます。採精室には雑誌のみございます。DVDの視聴を希望される場合はDVDプレーヤーのみ貸出できますのでDVDはご自身でお持ち下さい。
- 禁欲期間は、2日～6日が適切です。長い禁欲期間は精子濃度や運動率に悪影響が出る場合があります。
- 提出時は当院指定の専用容器を使用し、容器に夫婦の氏名をカタカナで記入の上、凍結保存に○印をして下さい。

(3) ご持参にて精子凍結をされる場合

- a ご持参の場合は、射精時間から精子凍結の予約時間が3時間以内であることが条件です。
- b ご持参の場合は、当院指定の専用容器に射精精子を入れた後、精子の保護目的として培養液を容器に加えて下さい(培養液の持ち帰りを忘れた場合には培養液の使用は不要です。培養液を使用しなくても支障はありません。)
- c 禁欲期間は、2日～6日が適切です。長い禁欲期間は精子濃度や運動率に悪影響が出る場合がありますので2～3日が最良です。
- d 提出時は当院指定の専用容器を使用し、容器に夫婦の氏名をカタカナで記入の上、凍結保存に○印をして下さい。

(4) 精子凍結に関する案内はHPでも行っています。写真付きでわかりやすいためこちらもご参照ください。

- 1-④ 精子検査と精子凍結を1回の射精精子で同日に行うことは出来ません。ただし、化学療法や放射線治療を控えている方で将来精子形成が困難になることが予想され、主治医作成の診断書提出により精子凍結される場合には医学的事情を考慮します。
- 1-⑤ 1回分の射精精子からは、1アンプル分(1回分・1本分)の凍結しか出来ません。ただし、精子濃度6000万以上/運動率80%以上の場合は2本に別けることも出来ますのでご希望の場合にはご予約前にご連絡下さい。また、この場合は実際に2本に別けて凍結保存できるかどうか所見を確認致しますので、精子提出後20～30分お待ちいただきます。凍結費用は2本分がかかります。
- 1-⑥ 凍結方法について
院内またはご自宅にて採取した精液を、連続密度勾配法で調整を行います。その後、液体窒素蒸気凍結法により凍結処理を行い、液体窒素の入った凍結タンク内にて保管されます。
- 1-⑦ 当院にて凍結出来る精子所見について
当院にて凍結可能な精子所見は、運動精子数500万匹以上です。ただし、化学療法や放射線治療に備えて精子凍結保存を希望されるが基準に満たない場合は医師の指示により凍結保存を行います。
- 1-⑧ 精子凍結時は、予約日から当日までに「精子凍結保存及び凍結保存継続に関する同意書」の提出が必要です。この同意書は、当院HPの書類ダウンロードのページに掲載されていますので患者様ご自身で印刷し、ご記入の上、控えとしてご提出前にご自身でコピーをお取り下さい。1-①(3)に該当する場合はさらに「将来の精子形成障害に備えた精子凍結保存の同意書」の提出も必要です。
 - (1) 当院にて初回の精子凍結の際は、当院HPの書類ダウンロードのページに掲載されている「精子凍結保存及び凍結保存継続に関する同意書」の提出が必要です。予約日から当日までの間に同意書が提出できなかった場合は次の通りとします。
 - a 当日ご夫婦でご来院頂いた場合は、その場で記入頂き同意書の提出や不備の訂正を頂く
 - b 当日ご来院頂いた妻もしくは夫に【仮】精子凍結保存及び凍結保存継続に関する同意書を提出頂き、その日を含めた5日以内必着にて「精子凍結保存及び凍結保存継続に関する同意書」をご郵送もしくは来院にて提出することが出来る場合に限り精子凍結をしていただけます。5日以内に正式な同意書が当院の手元に届かない場合には、その凍結精子は当院にて破棄処分とし費用の返金も行えませんので十分ご注意ください。
 - (2) 精子凍結保存及び凍結保存継続に関する同意書の提出は、凍結保存の度に毎回必要です。当院での精子凍結が2回目以降の場合には採精容器と一緒に梱包されている「精子凍結保存及び凍結保存継続に関する同意書<簡易版>」の提出でも結構です。
- 1-⑨ 上記1-⑦の基準を満たすことが出来ず、凍結することが出来なかった場合
凍結出来なかった場合に限り、当院より患者様にお電話にて連絡しております。凍結出来なかった場合でも精液の凍結前調整は行っているため費用の返金は一切ございません。
- 1-⑩ 凍結精子のデータ連絡について

精子の凍結が出来た場合には、精子提出時の所見が記載されている「精子所見報告書」と調整後の所見が記載されている「精子凍結保存リスト」を凍結日以降の診察にてお渡しいたします。

(注意:精子所見の詳細については誤認を防ぐためお電話でお問合せには応じておりません)

1-⑪ XY精子選別法(女の子産み分け)をされる患者様の場合

- (1) XY精子選別法での精子凍結は、調整選別後に精子を凍結致します。当日ご提出して頂いた精子が選別出来る状態かどうか確認するため、ご提出後に約20～30分程度お待ち頂きます。選別可能な精液所見は、液量1.0ml以上・精子濃度2000万匹以上・運動精子1000万匹以上です。
- (2) XY精子選別法を希望されXY精子選別法を実施するための検査結果が基準値を満たし、同意書が受理された方は、それ以降の治療は全てXY精子選別法になります。都度、XY選別法あり・なしなどを選択できるわけではありません。精子凍結の場合も必ず「産み分けあり」の項目名にてご予約下さい。XY精子選別法の中止を希望される場合はHPの書類ダウンロードのページに掲載されている「XY精子選別法(密度勾配遠心法)中止依頼書」という申請書の提出が必要です。

2 精子の凍結保存期間と1アンプルあたりの凍結費用について

- 2-① 化学療法や放射線治療に備えて診断書提出により精子凍結をされている場合、またそれに準じた長期的な凍結保存を前提としている場合
精子の凍結保存期間は、凍結日から1年後の月末までです。この間の費用は10,800円(税別)です。
- 2-② 当院にてTESEを行い、その精子を凍結する場合
精子の凍結保存期間は、凍結日から1年後の月末までです。この間の費用は20,946円(税別)です。
- 2-③ 上記の2-①、2-②以外の一般の場合
精子の凍結保存期間は、凍結日から半年後の月末までです。この間の費用は5,400円(税別)です。
- 2-④ XY精子選別法(女の子産み分け)をされる患者様の場合
精子凍結時に選別まで行うため、選別費用13,700円(税別)が上記2-③とともにかかります。

3 凍結精子の最長保管期間

凍結されている夫(本人)の年齢が満65歳の誕生日までとなり、それ以降については自動的に破棄処分と致します。

4 凍結精子の更新について

凍結精子の凍結保存期間は1-⑩の通り精子凍結保存リストに記録されますのでその期間内に患者様ご自身で次の通り手続きを行う必要があります。

4-① 継続と破棄の手続き期限

- (1) 凍結保存期間満了日までに継続もしくは破棄処分の手続きが必ず必要です。凍結保存期間満了日までに手続きが完了しない場合は継続の意思がなく凍結精子の所有権を放棄したものとみなし、凍結精子の処分権は当院に帰属します。
- (2) 凍結保存期間満了日までに継続もしくは破棄処分の手続きが行われない場合は、当院での以後の精子凍結はお断りさせていただきます。

4-② 凍結継続の手続き方法について

(1) 書類送付

凍結保存期間満了日までに、当院HPの書類ダウンロードのページに掲載されている「精子凍結保存継続希望依頼書」に記入し、その書類に書かれた送付先まで郵送もしくはご来院にてご提出ください。

(2) 精子凍結保存費用のお支払

継続を希望される場合は凍結保存期間満了日までに、1アンプル当たり1年間10,800円(税別)を振込か、ご来院にてお支払下さい。お支払金額が不足していた場合には手続きは未完となりますのでご注意ください。

<お振込みの口座案内>
三菱東京UFJ銀行 原宿支店 (普通)3701409
ハラメディカルクリニック ハラトシオ

(3) 更新期間

更新期間は1年間です。1カ月単位、半年単位での更新は致しません。

(4) 入金後のご返金は致しません

継続手続きにてご入金後の返金は理由に問わず一切対応致しませんのでご注意ください。

(5) 精子の凍結保存期間中に、当院で定める保存費用の増減や保存期間の変更があった場合には、次回の更新手続き時から改訂された最新の保存費用や保存期間が適用されます。

4-③ 凍結破棄処分の手続きについて

(1) 書類送付

凍結保存期間満了日までに、当院HPの書類ダウンロードのページに掲載されている「凍結精子破棄処分の依頼書」に記入し、その書類に書かれた送付先まで郵送してください。

(2) 費用のお支払

破棄処分の場合には費用は発生しません。

4-④ 患者様から当院への連絡義務

(1) 当院から患者様に連絡し凍結継続されるか、破棄処分されるかの確認をする義務はありません。凍結の継続や破棄処分の手続きは上記4-②、4-③の通り行って下さい。凍結保存期間満了日までに凍結精子の継続もしくは破棄処分の手続きが完了しない場合には4-①の定めに従い凍結精子の所有権を破棄したものとみなし処分権は当院に帰属します。

(2) 夫もしくは妻のどちらか一方だけでも通院時のカルテに記録されていた住所や電話番号が変更になる場合は変更後1週間以内に、当院HPのお知らせというページの「通院中の方 住所・電話番号変更連絡」フォームより送信下さい。お電話による変更は受付出来ません。また、住所変更後最初のご来院時に保険証のご提示をお願い致します。

(3) 海外にお住まいの方

a 更新時や事故や災害などの緊急時に連絡が必要になります。夫もしくは妻のどちらか一方だけでも通院時のカルテに記録されていた住所、電話番号から変更になる場合には必ず上記(2)の通り変更の手続きをしてください。また、その後ご帰国され国内住所に変わる際も同様に変更手続きをお願い致します。ご帰国後最初のご来院時に保険証のご提示をお願い致します。

b 海外にお住まいの方の凍結精子更新のお手続きも国内の方と同様です。期限までに4-②/4-③の通り凍結精子の継続もしくは破棄処分の手続きをしてください。なお、お住まいのご住所から書類の郵送を頂き、かつ、継続の場合は費用のお支払が必要です。精子凍結保存リストの郵送は国内住所の方に限らせて頂き、海外の方へは上記(2)にて登録されたメールアドレスにお知らせを送信させていただきます。メールアドレスが変更される場合は速やかに上記(2)にて再度お手続き下さい。ただし、(1)の通り凍結に関する連絡は患者様が責任を持って行っていただく必要があります。当院からのメール送信はあくまでも付加サービスであり当院の義務ではないため、このメール送受信トラブルなどにおける当院の責任は一切ございません。また、メール送受信トラブルは継続もしくは破棄処分の手続きをされなかった場合の理由として勘案しません。

4-⑤ 当院からのご案内

(1) 凍結更新の約1ヶ月前を目途に、国内に住所のある患者様を対象にお預かりしている凍結精子の一覧表「精子凍結保存リスト」を書留郵便にてお送り致します。差出人はクリニック名ではなく、院長の原利夫の個人名でお出します。ただし、4-④の通り凍結に関する連絡は患者様が責任を持って行っていただく必要があります。当院からの精子凍結保存リスト郵送はあくまでも付加サービスであり当院の義務ではないため、この書類の郵送トラブルなどにおける当院の責任は一切ございません。また、この書類の郵送不備は継続もしくは破棄処分の手続きをされなかった場合の理由として勘案しません。

- a 精子凍結保存リスト送付につきましては、時期の指定やカルテに記録された以外の住所への送付、及び再送付の依頼はお受けできません。
- b 凍結精子の所有権は夫にあり、当院からの凍結精子に関する一切のご連絡は夫を代表連絡窓口とさせていただきます。従って妻への連絡は夫により行って頂き、当院より妻への連絡は致しません。
- c 上記bについて、夫のみが国外に出られ妻が国内に在住の場合で連絡先住所を妻の住所で登録されたい場合には、当院HPの書類ダウンロードのページに掲載されている、「精子凍結保存リストの郵送先変更依頼書」に直筆にて署名し、ご郵送ください。
- d 精子凍結保存リストの送付は国内の住所のみを対象とします。
- e 精子凍結保存リストをの郵送を希望されない場合には当院HPの書類ダウンロードのページに掲載されている「精子凍結保存リストの郵送停止依頼書」を記入し、ご提出下さい。
* 依頼書提出により、精子凍結保存リストの郵送は致しませんが、他、必要に応じて書類送付させていただく場合がございます。

(2) 更新後の精子凍結保存リストは普通郵便で郵送します

更新後の精子凍結保存リストは国内住所の方に限り普通郵便にて郵送いたします。書類の郵送未着などにおける責任は一切当院にはございません。4-⑤(1)eの手続きをされている方には更新後の書類も郵送いたしません。

5 災害(地震・火災などの不可抗力)により、精子の損傷や損失が生じた場合には、患者様の意思に関係なく精子は破棄処分されます。また、この場合の補償などは一切応じられません。

6 保存責任について

凍結精子が不可抗力その他当院の責めに帰すべからざる事由により使用不可能になった場合、当院は一切損害賠償責任を負いません。ただし、当院の責めに帰すべき事由によって凍結精子が使用不可となった場合、当院は患者様がそれまで使用不可となった精子に支払われた凍結保存費用の合計額を限度として損害を賠償致しますが、それ以上の補償は致しません。

7 凍結精子を他の施設に移送する手続きと方法について

凍結保存中の精子の所有権は患者様にありますので、自由にご希望の施設に移送することが出来ます。移送を希望される施設へは患者様ご自身で交渉の上許可をお取り頂き、当院HPのお問合せページに用意しております、移送依頼フォームよりご連絡下さい。移送に際する詳細は以下の通りです。

7-① 移送方法について

- (1) 国内の施設への移送は、液体窒素の取り扱いに関する法律により一般の宅急便業者などに依頼することが出来ませんので患者様ご自身で以下の(5)の容器を持ち移動頂きます。
- (2) 国外の施設への移送は、液体窒素の取り扱いに関する法律により機内持ち込みまたは荷物受託することが出来ません。また、海外への移送の場合には以下(5)の容器について当院からの貸し出しは出来ません。よって、国外の施設への移送には専門業者を患者様自身でお探し頂く必要があります。また、業者に患者様の凍結精子/胚/卵子を引き渡す際にはその委任状をご提出頂くことと、引き渡し当日にはご夫婦のうちのどちらか一方にお立合い頂く必要があります。

7-② 凍結状態の他院への引継ぎについて

当院から他院へ移送の際に患者様に渡すものは次の通りです。

- ①『移送用凍結状態確認用紙』※移送先提出用
- ②『凍結精子、凍結受精卵(胚)受け取り確認』※記入後、その施設から当院にご郵送下さい

7-③ 凍結精子移送日

日曜日と当院休診日(HPのTOPの「診察時間のお知らせ」にて確認下さい)以外の日程を第2希望までお決め下さい。

7-④ 時間

移送手続き時間は15時来院に限らせて頂きます。15時にご来院頂き、当院を出られるのは15時半頃となります。移送先の施設までの移動時間を加算した時間を移送先施設に伝え許可をお取り下さい。

7-⑤ 移送用の容器の貸し出し

- (1) 移送には液体窒素を入れて運ぶことが出来る専用の容器が必要になります。この容器は、当院で貸し出すことも出来ますし、移送先の施設から借りることも出来ますので、どちらにされるかお決め下さい。当院での貸し出しを希望される場合は移動時間が2時間を超えるケースについては移送用の容器はドライシッパーが適用されます。
*ドライシッパーは約30x30x70cmの段ボールに入っており、10kgぐらいになりますのでそれを運ぶためのキャリアーを患者様ご自身でご用意頂く必要があります。
- (2) 当院の容器を使用する場合には貸出から返却まで3日以内とさせていただきます。容器の返却は宅急便で結構です。
- (3) 容器貸出しの預かり金として移送日に現金にて2万円お預かりいたします。預かり金は期日内返却を確認後、窓口もしくはお振込みにて返金させていただきます。窓口にて返金をご希望の場合はご来院の前日までにお電話にてご連絡下さい。振込みをご希望の場合は移送から2ヶ月以内に当院から振込みさせていただきます。振込手数料は患者様負担とさせていただきます。

7-⑥ 液体窒素の充てんについて

容器内に、液体窒素を充てんする必要があります。液体窒素の量は移送される本数・移送先までの距離・移送容器の種類により異なるため移送当日に決定致します。この液体窒素の準備を当院にて希望する場合は実費として1リットル当たり2,000円(税別)がかかります。
例:凍結精子3本を小さい容器に入れ関東圏の施設に移送した場合の液体窒素の費用は4,000円(税別)が目安になります。
* 当院にて移送用の容器貸出を希望され、その移動時間が2時間を超える場合はドライシッパーを使用します。ドライシッパーには液体窒素が約10リットル以上必要になるため20,000円(税別)以上の液体窒素の費用がかかります。

7-⑦ 移送の連絡方法

当院HPのお問合せページにございます、移送依頼フォームよりご連絡下さい。

8 別居される場合の手続き

- 8-① 仕事や家庭の事情により、ご夫婦のご住所が別々になる場合でも上記4-⑤(1)bの通り、精子凍結保存リストの送付は代表連絡窓口である夫になりますので当院からの一切の連絡は夫宛に行われます。この場合、代表連絡窓口である夫の住所変更がある場合には上記4-④(2)の通り住所変更の連絡を下さい。凍結継続もしくは破棄処分の手続きには妻の署名も必要なため、夫から妻に連絡して下さい。手続き書類は同一書面の署名ではなく、個々に別々の書面でも結構です。ただし、ご夫婦の更新内容が一致していない場合にはお手続きは完了致しません。お手続きが完了しないまま凍結保存期間満了日を過ぎた場合には、4-①(1)の通り凍結精子の所有権を破棄したものとみなし処分権は当院に帰属します。
- 8-② 上記①の場合で、万が一、代表連絡窓口を夫から妻に変更したい場合は、連絡先として妻の住所を希望する旨、当院HPの書類ダウンロードのページに掲載されている、「精子凍結保存リストの郵送先変更依頼書」に直筆にて署名しご郵送ください。当該郵送先変更依頼書が当院に到着した翌日より当院は代表連絡窓口を夫から妻に変更し、一切の連絡を妻のみに行います。
- 8-③ ご夫婦関係が不良な場合や離婚調停中などで別居状態にある方、また離婚された場合
 - (1) 夫の意思が反映されず、更新手続きや治療が進められた事例があります。
 - a 夫が別の住居に移転しても当院に対し住所変更をされなかった場合や、出張中の場合などに、夫の知りえないところで妻のみの意思で手続きがされた事例があります。当院側は書面の筆跡鑑定までは致しておらず、かかる事例につき当院では一切責任を負えませんので、十分ご注意ください。
 - b 出張が多いなどの理由で、事前に夫が複数の同意書に署名し、その後夫婦関係が不良になった際に妻が事前に署名された同意書を提出し、精子の融解を伴う治療を行い、妊娠・出産され、その後親権を巡る裁判が行われるケースがありますが、当院では一切責任を負えませんので十分にご留意ください。
 - (2) 妻の意思が反映されず、更新手続きがされる可能性があります。
上記4-⑤(1)bの通り、精子凍結保存リストの送付は代表連絡窓口である夫になりますので、妻の知りえないところで夫のみの意思で手続きがされる可能性はありますので十分にご留意ください。

- (3) 凍結保存継続手続き並び破棄処分手続き書類の提出は、ご夫婦同一書面ではなく、夫と妻が別々の書類でも結構です。ただし、ご夫婦の手続き内容が一致していない場合にはお手続きは完了致しません。完了しないまま凍結保存期間満了日を過ぎた場合には、4-①(1)の通り所有権を放棄したものとみなし処分権は当院に帰属します。
- (4) 夫か妻のどちらか一方が今後の不妊治療の継続を望まないにも関わらず、夫婦間の連絡が取れずどちらか一方のみが通院を続けてしまうリスクがある場合には、ご夫婦のどちらか一方でも「治療中止の申請」をすることが出来ます。
- a 申請は、当院HPの書類ダウンロードのページに掲載されている「治療中止の依頼書(夫婦間の連絡が取れない場合)」にご記入の上ご郵送下さい。当院はこの依頼書の受け取りから1週間以内に「治療中止の受領書」を夫と妻の両方に書留郵送を致します。この際の送付先はカルテに登録されている住所に行くため万が一ご住所が変更されているにも関わらず4-④(2)の通りに手続きがされていない場合には「治療中止の受領書」は患者様のお手元には届きませんのでご注意ください。
 - b 不妊治療はご夫婦の自由な意思の下に夫婦一致した方向性をもって治療することが必要になります。どちらか一方が不妊治療の中止を希望する場合には当院ではそのご夫婦の治療を進めることは出来ませんのでご夫婦間で解決下さい。
 - c 「治療中止の依頼書(夫婦間の連絡が取れない場合)」をご提出いただいた後、ご夫婦の自由な意思の下に夫婦一致で治療再開を希望される場合には診察予約を取られる前に当院までお電話にてご連絡下さい。再開時には書面の記入と、ご夫婦両方の発行日から1か月以内の戸籍謄本の提出が必要となります。また、治療再開後最初の診察にはお二人でお越しいただく必要があります。
 - d 凍結保存精子がある方が、「治療中止の依頼書(夫婦間の連絡が取れない場合)」をご提出いただいた場合、凍結精子の継続手続きならびに破棄手続きについては上記4の通りに同様といたします。

(5) 離婚された場合

精子の凍結をされているご夫婦が離婚された場合、1-①の通り当院では健康な独身男性の精子凍結は受付していないため、他の施設への移送もしくは破棄処分が必要になります。移送方法については「7凍結精子を他の施設へ移送する手続きと方法について」をご覧ください。凍結期間満了日まででに他施設への移送、あるいは廃棄処分のどちらかの手続きがされない場合、凍結精子の所有権は放棄したものとみなし処分権は当院に帰属します。

- 9 夫が死亡された場合は、妻(パートナー)の意思に関係なく、精子は破棄処分されます。死亡から1ヶ月以内に当院HPの書類ダウンロードのページに掲載されている「凍結精子破棄処分依頼書」を記入し当院まで郵送下さい。妻が死亡された場合は、1-①の通り当院での凍結継続は出来ません。凍結精子の凍結期間満了日まででに凍結精子を他の施設へ移送されるか、破棄処分されるかご検討下さい。移送方法については「7凍結精子を他の施設へ移送する手続きと方法について」をご覧ください。
- 10 化学療法や放射線治療等に備え、精子を凍結保存されていた男性が死亡された場合は、親族やパートナーなどの意思に関係なく、精子は破棄処分されます。死亡から1ヶ月以内に当院HPの書類ダウンロードのページに掲載されている「凍結精子破棄処分依頼書」を記入し、当院までご郵送下さい。
- 11 破棄処分を希望された場合、並びに手続期限を過ぎ処分権が当院に帰属した精子については、医療技術の発展の為に、精子融解練習/精子凍結練習/顕微授精練習などに使用させて頂く場合があります。使用後はただちに責任をもって破棄処分致します。目的はあくまでも医療技術の発展の為に人工授精や胚移植には使用致しません。この取扱いは日本産科婦人科学会の取り扱い規定に準じて行われます。
- 12 融解について
- 12-① 融解方法について
液体窒素の入った凍結タンクからセラムチューブを取り出し、37°Cに設定されたドライバスで融解を行います。セラムチューブを凍結タンクから取り出す際は、培養士2名でセラムチューブに記入されている患者ID、患者名、凍結日を読み上げ確認を行っております。
 - 12-② 融解後の精子を用いた治療

人工授精や体外受精/顕微授精に使用します。1回の治療に複数本の精子を使用することは出来ますが、1本融解後の精子を複数本に分けて使用することや再凍結することは出来ません。

(1) 人工授精、体外受精/顕微授精の費用について

2015年現在、人工授精は1回約2万円です。体外受精/顕微授精は治療内容により費用が異なります。採卵から胚移植まで一通り行って165,000円～550,000円くらいです。治療内容や費用の詳細は体外受精説明会にご参加ください。またHPの料金表もご参照ください。

(2) 妊娠率について

1回あたりの人工授精での妊娠率は3%～10%、1回あたりの体外受精/顕微授精での妊娠率は20%～38%です。いずれも女性側の年齢や不妊原因により大きく異なります。年齢別の妊娠実績についてはHPをご参照ください。

12-③ 精子の凍結融解後の生存率

一般的に凍結・融解により精子の生存・運動率は低下しますが、凍結融解後の所見については個々の精子状態によるため事前に予測することは出来ません。融解した精子の生存率が低い場合は治療に使用出来ない場合があります。

12-④ 凍結融解精子の人工授精、体外受精使用割合の実際

2011年～2013年の実施は次の通りでした。

(1) 人工授精(AID除く)での凍結融解精子使用割合は、全体の15.4%

(2) 体外受精/顕微授精での凍結融解精子使用割合は、全体の9.5%

12-⑤ 凍結融解精子での妊娠について

一般的に、凍結精子は融解により運動率の低下が見られますがそれが妊娠率にまで影響することは少なく、新鮮精子を使用した場合と凍結精子を使用した場合の妊娠率に大きな差はないと報告されています。以下に示す当院の人工授精のデータでは新鮮精子使用の方が妊娠率が高くなりましたがこれは凍結融解精子使用の人工授精例が少ないことからの誤差範囲と考えます。体外受精/顕微授精での妊娠率はほぼ同じで有意差は見られませんでした。なお、新鮮精子を使用した場合と凍結融解精子を使用した場合で生まれたお子様の発育に差が出たり先天奇形などの頻度が高くなるという報告はありません。

(1) 人工授精(AID除く)の場合

総人工授精妊娠率	2.83%
うち新鮮精子使用	3.28%
うち融解精子使用	0.75%
うち新鮮+融解精子使用	0%

← 年齢別のデータはHPの当院紹介から妊娠実績参照

← 上記2-⑤の通り実施割合が少ないため信用度の高い数値ではありません

* 上記は2011年～2013年のデータ

(2) 体外受精/顕微授精後の胚移植の場合

総胚移植妊娠率	19.20%
うち新鮮精子使用凍結胚	19.00%
うち融解精子使用凍結胚	21.00%

← 年齢別のデータはHPの当院紹介から妊娠実績参照

← 凍結融解精子使用凍結胚の方が妊娠率が高いのは、顕微授精の割合が多くなるため胚移植までたどり着く確率が高いことが要因と考えますが、この差異に有意差はありません。

* 上記は2011年～2013年のデータ

12-⑥ 凍結融解精子を使用する場合には当院所定の同意書の提出が必要です。

人工授精・体外受精・顕微授精での使用を目的として凍結精子を融解する場合、当院HPの書類ダウンロードページに掲載されている「凍結精子の融解同意書」の提出が必要です。

12-⑦ 凍結精子の融解費用

当院を含めた日本国内にて凍結保存した精子については、融解費用はかかりません。国外にて凍結した精子の融解についてはその手技や使用すべき培養液が異なることから、1アンプルあたり17,000円(税別)の融解費用がかかります。

12-⑧ 化学療法や放射線治療を予定し将来精子形成が困難になることが予想されるための精子凍結保存後の流れ

- (1) ご夫婦が妊娠の準備をはじめたい時期になりましたら、妻の初診予約をとるためにお電話にてご連絡ください(当院の一般的な初診はHPから登録をいただいておりますがこの方法は初診まで数か月お待ちいただく必要があります。病気が理由で精子凍結保存をされている方は初診予約を優先的に用意いたしますのでお電話にてご連絡ください)
- (2) 凍結精子を使用する場合には、人工授精もしくは体外受精/顕微授精にて治療を進めます。人工授精を適用することができるのは調整後の運動精子が500万以上の場合のみです。それ以下の場合には体外受精/顕微授精が適用になります。また、女性側の状態によっても治療選択が異なります。
- (3) 主治医の判断による原疾患の治療終了時、または、寛解期には再度精液検査を実施してください。検査により精子が確認できる場合があり、また、凍結精子ではなく新鮮精子を使用した場合の方が高い妊娠率を見込める場合があります。

13 凍結精子に関する規定は当院の判断により改定されることがあります。

14 その他、全ての項目は日本産科婦人科学会、日本生殖医学会、及びJISART倫理委員会の規定に基づきます。